

令和4年度

教職課程

自己点検・評価報告書

学校法人九里学園

浦 和 大 学

令和5年3月

浦和大学における教職課程自己点検・評価報告書の構成及び様式は、『「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引き（令和4年度版）』（一般社団法人 全国私立大学教職課程協会）を参照して設定した。

浦和大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・ こども学部（学校教育学科、こども学科）
- ・ 社会学部（現代社会学科）

大学としての全体評価

浦和大学は、学校法人九里学園が「実学に勤め徳を養う」を校訓として、2003年に総合福祉学部総合福祉学科の1学部1学科で開学した。現在は、こども学部（こども学科と学校教育学科）、社会学部（総合福祉学部から名称変更）に総合福祉学科と現代社会学科の2学部4学科を設置し、総合福祉学科を除く3学科に教職課程を開設して、幼稚園から高等学校までの教員養成を行っている。

教職課程開設の経過は以下の通りである。2007年に豊かな幼児教育を担うことを目的として幼稚園教諭一種免許状（こども学部こども学科）、2017年に人間理解に根差す初等教育を担うことを目的として小学校教諭一種免許状（こども学部学校教育学科）、2020年に急速に変化する社会で中等教育を担うことを目的として中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（公民）（社会学部現代社会学科）と、段階的に教職課程を拡充してきた。

いずれの学科においても本学の校訓でもある「実学に勤め徳を養う」を根底として、実学教育を通じた人間形成を特色とする教職課程教育に努めている。

教育課程編成においては、学内の授業と学外の体験活動や教育インターンシップ、教育実習等、学内外での学修を往還的に展開することによる実践的教育を行なっている。

教職課程教育に資する施設設備としては、教育実践に役立つ模擬教室や保育実習室、豊かな教科教育に結びつく音楽、理科、家庭科等の特別教室、近年急速に必要性が増しているICT環境を自然に恵まれたキャンパスに整備している。

教員組織においては、主として研究を基盤とする教員と実務経験を有する教員とを適切に配置し、学生と教員との人格的な触れ合いが可能な少人数教育を徹底し、丁寧な個別指導を行っている。実務経験を有する教員が学生に幅広い教育経験を伝達することは有意義な学修支援である。本学の教職課程教育の成果は、実際に学校での教育に携わり、学び続ける卒業生が示すところであり、今後さらに本学で教員免許状取得を目指す学生が増えることを期待している。

教職課程を支える教職支援体制は、こどもコミュニティセンターが学内外の実習・演習を支援する業務を担当し、各免許種に必要な教材、教具、図書、雑誌類を配置して学生の自主的な学修を支援している。学生への指導や相談、学生同士での学習のスペースも設けており、日常的に活用されている。

教職課程を設置する3学科の横断的組織は教員養成協議会である。同協議会は規程に基づいて学内の教職課程に必要な各種協議や企画、連絡調整などを行っている。さらに学外の意見を取り入れ、より質の高い教職課程教育を行うことができるよう拡大教員養成協議会を開催し、教育委員会及び近隣の学校関係者と教員が一堂に会し、講演や意見交換の場を設けている。

教職課程に関する業務は、教員とこどもコミュニティセンター・教務課等事務局による教職協働体制で実施している。

教育職員免許法施行規則の改正を受けて教職課程の自己点検・評価を実施するため、教員養成協議会の規程を一部改訂し、こどもコミュニティセンターを事務局として教職課程自己点検・評価専門部会を設け、取りまとめを行ってきた。

今回の自己点検・評価の結果を踏まえ、学校教育法に基づく自己点検・評価の取り組みとも連動させながら、本学における教職課程教育の一層の充実と発展を目指すものである。

2023（令和5）年3月

浦和大学

学 長 久 田 有

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	3
	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	6
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	11
	基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	11
	基準項目2-2 教職へのキャリア支援	14
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	18
	基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	18
	基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携	22
III	総合評価	27
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	29
V	現況基礎データ一覧	30

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：浦和大学
- (2) 学部名：こども学部（学校教育学科・こども学科）、社会学部（現代社会学科）
- (3) 所在地：埼玉県さいたま市緑区大崎 3551 番地
- (4) 学生数及び教員数

（令和 4 年 5 月 1 日現在）

<学生数>：こども学部学校教育学科 こども学部こども学科 社会学部現代社会学科	教職課程履修 94 名 教職課程履修 275 名 学部全体 369 名 教職課程履修 20 名 学部全体 20 名
---	---

※履修人数は、免許状取得意向届の提出者数のうち辞退者数を除いた数

<教員数>：こども学部学校教育学科 こども学部こども学科 社会学部現代社会学科	教職課程科目担当（教職・教科とも） 32 名 教職課程科目担当（教職・教科とも） 31 名 学部全体 54 名（重複を除く） 教職課程科目担当（教職・教科とも） 中一種免（社会） 36 名 高一種免（公民） 29 名 学部全体 37 名（重複を除く）
---	---

2 特色

【こども学部学校教育学科】

学校教育学科では、3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を設定し、その実現に向けて取り組んでいる。特に、初等教育に携わる教員として、こどもの成長と発達、表現と創造性についての総合的な理解に基づいた今日かつ地域的な学校教育の課題に適切に対応できる実践的指導力の獲得を目指している。さらに「ひとを大切にし、こどもと学生がともどもに伸びる」を理念とし、教育活動に当たっている。

学科の特徴として、徹底的な少人数指導があげられる。アドバイザー制により学生の指導に当たっており、特に3年生からのゼミ指導では、教員1名当たり3～5名の個別指導を実施している。ここでは、卒業研究指導のほか、教育実習指導、教員採用に向けた指導・助言、生活指導・相談等、多岐にわたり学生一人ひとりに寄り添った指導を行っている。

また、1年次より児童との関わりを重視しており、さいたま市教育委員会と連携して、近隣及び市内の小中学校への教育インターンシップ（チャレンジスクール、アシスタントティーチャー）を計画的に実施している。この経験が3年生で実施する教育実習に大いに役立っている。

<根拠となる資料・データ等>

資料 2：大学案内 2023

資料 3：浦和大学の 3 つのポリシー（大学 HP）

【こども学部こども学科】

こども学科では、優れた幼稚園教諭を養成するため、第 1 に、こどもに関する専門的知識を修得すること、第 2 に、こどもの最善の利益を尊重する視点やこどもの表現を感受できる自由な心を有し、こどもたちとの信頼関係を育む態度を形成すること、第 3 に、こどもの文化の基礎的知識や幼児教育、保育の実践に役立つ技能・技術を修得すること、そして第 4 に、家族・地域社会・現代社会との関係でこどもを理解する視点に立って地域社会の創造に寄与できることをディプロマ・ポリシーに掲げている。この目的を達成するため、少人数による指導を徹底し、保育内容や指導法の学びに加えて、こどもの表現や児童文化に関する学び、こどもの権利や家族・地域支援に関する授業科目を充実させている。また、地域の親子が自由に訪れ学生と触れ合う親子のひろば「ぼっけ」を学内に開設し、保育技能、こどもと保護者への支援の実践的学びができるよう環境を整えることにより、複雑化する現代のこどもをめぐる諸課題に対応できる人材の養成を目指している。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3：浦和大学の 3 つのポリシー（大学 HP）

【社会学部現代社会学科】

現代社会学科は、2020 年度に開設され「社会学の基礎理論と方法を修得することにより、急速に変化する現代社会の諸課題とその背景及び構造を把握する社会学的想像力を養い、社会的存在としての人間の幸福を考究し、他者との協働において解決方法を提案、実践する能力を具えた人材を養成すること」を学科の目的としている。現代社会学科における教職課程の特色は、現代社会の諸課題を直視し、メディアから伝わる情報を無批判に受け入れるのではなく、客観的に、冷静にものごとをとらえ、判断できる学生を育て、その能力を中等教育段階の生徒に対する社会科・公民科教育を通じて発揮していく教員を養成することにある。その実現のため、第 1 に、教科の知識と教科指導の実践力を有する教員養成、第 2 に、社会科・公民科に関する知識を多様な角度から学べる専門課程に支えられた教職課程、第 3 に、浦和実業学園中学校・高等学校(併設校)と連携した教員養成に臨んでいる。

<根拠となる資料・データ等>

資料 3：浦和大学の 3 つのポリシー（大学 HP）

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

学校教育学科では、ディプロマ・ポリシーで4つの方針、カリキュラム・ポリシーで8つの方針を定め、学士課程教育プログラムと有機的なつながりをもつ教員養成カリキュラムを基盤として学位を授与し、現代社会が提起する教育諸課題に最新の知識・技能をもって関わることのできる教員を養成することを目的としている。これらの方針については、毎学期のオリエンテーション等様々な機会に学生に周知するよう努めている。また、チューデントハンドブックに履修モデルを明示し、履修の計画性・系統性に配慮し、周知と共有を図っている。

将来教壇に立つことを想定し、1年次より近隣の小学校に出向き放課後や土曜日の学習や生活を支援する教育インターンシップ（チャレンジスクール）、2年次からはさいたま市教育委員会と連携しアシスタントティーチャーの活動をするなど、実践的に学べるよう配慮をしている。教育現場でのインターンシップと理論学習を繰り返す「往還的学習」を通して、教職の専門性と実践的指導力を形成し、地域社会の教育活動に貢献している。学修成果について、計画的に振り返りを実施したり、履修カルテを作成したりすることにより、学生自身が可視化できるように工夫している。

<根拠となる資料・データ等>

資料 1 : STUDENT HANDBOOK 2022 年度

資料 3 : 浦和大学の3つのポリシー（大学 HP）

資料 4-1 : 学校教育学科教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

資料 5-1 : 学校教育学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

〔長所・特色〕

より実践的に、より広く深くこどもと関わることが、本学科の大きな特徴である。チャレンジスクールでは、近隣の小学校3校に1年次生全員をグループに分け配属し、児童の放課後や土曜日の学習・遊びの支援をしている。そこでは、こどもと関わることに加え、地域スタッフと協働し運営に当たっている。児童理解や危機管理・リスクマネジメントを体験できることは将来の教育現場で有効である。

また、「小学校模擬教室」を学内に設置し、教科指導法を中心に活用している。模擬教室には、児童が用いる机椅子、昇降型黒板、児童用ロッカー、ランドセル、清掃用具等がおかれ、教師としての視点、児童目線の体験ができるように配慮されている。教科指導法では板書計画や教材・掲示物の提示の仕方が学習できるほか、教室備品の適切な使用方法、豊かな心を育む掲示物作成など、実践的な学習を行っている。

<根拠となる資料・データ等>

資料 2 : 大学案内 2023

〔改善に向けた課題〕

現在進められている「GIGA スクール」構想に迅速かつ適切に対応することが急務な中、教科指導法を通して実際に小学校現場で取り入れられている ICT 機器の活用に関する学生のスキルアップが課題である。そのため、15 台のタブレット型 PC を模擬教室に配し、活用に向けて取り組んでいる。また、協働学習・授業支援ソフト「ミライシード」やドリルソフト「ニューコース学習システム」を導入し、学生に使用させることにより、教育実習や小学校現場で活用できるスキルを身に付けられるように進めている。

今後、履修カルテを活用し、教職実践演習において学修成果に関する評価規準を設けていくことが今後の検討課題である。

【こども学部こども学科】

〔現状説明〕

こども学科では、「実学に勤め徳を養う」との校訓すなわち、「実学教育をもって人間形成をはかる」という営みを大切に、「豊かな保育を構想し実践できる人材の養成」を目指している。そのため、教職課程においては「地域社会と連携した子育てを実践する人材の養成」「乳児からの発達と学びを支援できる人材の養成」「専門職としての資質を備えた人材の養成」を目的・目標としている。これらは、こども学科の3ポリシーに示され、学生、教職員に周知されている。学科の目標とする人材養成、保育者像については、入学前にはオープンキャンパスや入試ガイダンス、入学予定者に対する入学前セミナー、入学後は各年次前・後期オリエンテーション、授業、教育実習指導等において学生と教職員での共有を図っている。教職課程教育については、履修モデル、履修系統図を提示して系統性、計画性を踏まえた履修指導を行い、教職履修カルテを用いて年次ごとに振り返り、学生と教員との間で学修成果についての共有に役立てている。

<根拠となる資料・データ等>

資料 1 : STUDENT HANDBOOK 2022 年度

資料 2 : 大学案内 2023

資料 3 : 浦和大学の3つのポリシー (大学 HP)

資料 4-2 : こども学科教職課程設置時の目標と計画 (教職課程認定申請書抜粋)

資料 5-2 : こども学科シラバス (教職課程に関わる授業科目)

資料 13-2 : こども学科教職カルテ 2017 年度以降入学生用

〔長所・特色〕

こども学科では、少人数教育を特色としている。教員がきめ細かく関わる中で、教職課程教育の目標、幼稚園教諭、保育者として求められる資質等について考え合い共有するとともに、学びの系統性、計画性を踏まえての履修指導、学修成果の振り返りが可能となっ

ている。学内に設けられた親子のひろば「ぼっけ」での学びを通して、本学科の教員養成の目標である「家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点」をもち「地域社会と連携した乳幼児教育」を実践できる人材の育成に努めている。また月1回開催する学科の教育実習に関する会議には、直接実習指導に携わっていない教員も含め、専任教員全員と実務担当職員も参加することにより、実習を始め教職課程教育の目的・目標に関する教職員間の共有を図っている。

<根拠となる資料・データ等>

資料2：大学案内2023

【改善に向けた課題】

教職課程教育の目的・目標については、学生への周知、教職員間での共有を図り、個々の授業の達成目標についてはシラバスに明示している。学生がより主体的に意識して授業に臨み、学修成果を振り返ることができるような取り組みについて更なる検討を行う。現在使用している教職履修カルテは、各年次を追って時系列的に学びを振り返る形式となっているため、各授業科目の到達目標に対する学修成果を振り返り、系統的な学びの深化を可視化できるよう、重層的、立体的な教職履修カルテの作成への着手につき検討を行う。時系列的学びの軌跡だけでなく、系統的な学びの深化の軌跡の可視化を図ることにより、学生は教職課程教育の目的・目標に対する自分の学修成果の状況を把握できるようにしていくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料5-2：こども学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

【社会学部現代社会学科】

【現状説明】

校訓である「実学に勤め徳を養う」をはじめ、学則及び学科の3ポリシー、特に「大学での学修を通じて修得した課題発見から解決に向けた能力を、いかなる場にあっても、より良き社会の創造に関与することに活用する価値意識を有し、校訓を体現できること」（ディプロマ・ポリシー）等に則して、人に寄り添い人を支える教員養成、地域に根差し、地域と連携しながら教育を展開できる実践力ある教員養成を目指している。この理念を実現するため、教職課程では、社会性や協調性を育む教員養成、地域に開かれた教員養成、実践的指導力等十分なサポート体制の下に教員養成に取り組んでいる。この理念と目標を専任教員全員で共有するとともに、教職課程のカリキュラム編成について共通理解した上で、前期・後期の学期始めに行うオリエンテーション時に、学生に周知している。

【長所・特色】

学科専任教員全体で教職課程の目的や目標を共有し、協働体制のもと教職履修学生の支援に当たっている。定期的で開催される学科会において、教職担当教員が履修生個々の履

修状況を報告し、学科全体で課題を共有している。さらに、学期ごとの成績発表後に現代社会学科教育実習運営協議会を開催し、学科長、教職担当教員、こどもコミュニティセンター職員、教務課職員により、教職課程を履修している学生の学修状況を把握、一人ひとりの学生の課題を共有し学生への支援に活かすとともに、教育実習等学外実習の円滑な実施に努めている。

〔改善に向けた課題〕

現代社会学科の教職課程は、学科開設3年目であり、まだ完成年度に至っていないため、実際に教員を送り出す段階に至っていない。現状では、教職課程の目的や目標を学科教員全体で共有した上で、特に教職を目指す学生が学科の専門科目と教職科目を系統的に履修できるように、授業科目の配置について検討する。特に3年次配当の「教育実習」等実践的指導力の修得を目指す授業科目においては、主として研究を基盤とする教員と実務経験を有する教員及び職員と連携の取れた協働体制のもとに、学生を円滑に教育現場に送り出すことが肝要である。学生の学びを一層充実させることによって免許状取得へと導き、実践力ある教師へと養成していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料1 : STUDENT HANDBOOK 2022年度

資料2 : 大学案内 2023

資料3 : 浦和大学の3つのポリシー (大学HP)

資料4-3 : 現代社会学科 (中免・高免) 教職課程設置時の目標と計画 (教職課程認定申請書抜粋)

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

専任教員を中心に、各教科等に関する専門的事項や指導法、教育の基礎的理解、情報機器の操作などの指導に関わっている。学生の履修状況や履修内容等について、毎月の学科会議において、専任教員間での情報共有ができるようにしている。

また、非常勤講師や他学科教員による教育課程に関する多岐にわたる講義を行っている。学生の履修状況や態度等についての情報は、非常勤講師等からもメール連絡や対面により学科長に集約される体制になっている。

こどもコミュニティセンターにおいて、教育実習や教職に係る演習、教育インターンシップ、介護等体験の支援に関する業務を中心に、教職課程に関する支援体制を充実させている。特別招聘講師によるキャリアサポート支援として、主に教員採用試験対策をねらいとした教職サポートセミナーを全学年対象に毎週計画的に実施している。

さらに、学内に小学校で使用する器具等を備えた理科室、調理実習室、被服関係の教材を備えた家政実習室、実際の小学校の教室を再現した模擬教室、ICT端末を整備したメディア

教室等を配置し、教材研究や教科指導法の充実に努めている。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

〔長所・特色〕

専任教員やこどもコミュニティセンター職員間で、報告・連絡・相談を迅速できめ細やかに行っていることが大きな特色としてあげられる。毎月の学科会議では、ゼミ担当教員による学生状況の報告を実施している。そこでは、学生の教職に対しての不安、教師や児童との関わり方を心配する様子について情報共有するとともに、その解消に向けた具体的な方策を話し合っている。それをもとに、「スタディナビゲーション」やゼミで迅速に対応できることは、学生の不安解消に大きく役立っている。

また毎月の実習会議では、こどもコミュニティセンター職員を交え、教育実習や教育インターンシップ、介護等体験などの進捗状況を確認することにより、それに係る事務手続きを確実にしている。

さらに教職課程の核でもある教育実習に向けて、学生による事前模擬授業を実施しており、またその学習指導案作成及び事後指導を全担当教員がきめ細かく行っているのも特色である。

<根拠となる資料・データ等>

資料5-1：学校教育学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）「教育実習指導」

〔改善に向けた課題〕

学生に関する情報交換に関しては、日常的・定期的・臨時的に実施している。また、進路相談や生活指導、履修に関する相談や友人関係、卒業研究関係など、多岐にわたって相談に当たっており、その情報共有する時間も多くなっている。特に定期的に実施する学科会議において学生の状況について意見交換を行っている。学校教育学科の特色である一人ひとりに寄り添う相談や指導に努めているが、限られた時間の中で効率的な情報共有が課題である。

また、教育実習や教育インターンシップに向けて、トラブル対応についての留意点や発生した場合の対応に関するフローチャートを作成している。今後は円滑な実習と様々な事情に迅速な対応ができる組織体制をさらに充実させたい。

【こども学部こども学科】**〔現状説明〕**

こども学科では教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、特に保育内容の指導法及び教育実践に関する授業科目については実務経験を有する教員を配置し、専門的知識とともに実践的な技能を身に付けて乳幼児教育の現場に寄与できる人材の養成を行っている。学内には親子のひろば「ぼっけ」、音楽室、ピアノレッスン室、アートスペース等があり、学生が主体的、実践的に学べる環境を整備している。学外実習、学内演習の実施に関する業務についてはこどもコミュニティセンターに専門職員が配置され、専門雑誌や保育教材も備えられている。授業アンケートの実施とそのフィードバック、教員研修会の実施、教員養成の情報提供等により、全学的に教職課程教育の質の向上を図っている。また全学的組織である教員養成協議会に学科長が構成員として参加し、こどもコミュニティセンター、教務課等事務局との協働、連携を図るとともに、自己点検等を通じて教職課程教育の質の向上に努めている。

〔長所・特色〕

こども学科の教職課程教育は、こどもコミュニティセンターとの協働、連携に支えられ、学生の学びに効果をあげている。こどもコミュニティセンターには専門職員が配され、幼稚園教育実習に関する幼稚園との連絡調整、委託文書や実習手引書の編集・発行、実習費や実習事故補償保険に関すること等、教職課程教育に伴う実務全般を担い、教職課程教育に携わる教員と協働し、教職課程教育を支えている。学生にとっては力強い存在であり、充実した実習教育の円滑な実施を可能としている。またこどもコミュニティセンターには、絵本、紙芝居、パネルシアター等の保育教材、実習に有用な書籍や月刊の専門雑誌、模擬保育や教材研究に必要な画用紙や折り紙、はさみやのり等の素材や道具が備えられるとともに、学生が個々にあるいはグループで指導案や教材の研究、作成を行えるスペースを整備しており、教職課程の教育に適切な学修の環境となっている。

＜根拠となる資料・データ等＞

資料 8-3：浦和大学組織・管理・事務分掌規程 第 40 条（こどもコミュニティセンター 事務室）

〔改善に向けた課題〕

こども学科の教職課程教育については、実習先である乳幼児教育の現場（幼稚園、認定こども園）との連携・協力、こどもコミュニティセンター、教務課、全学組織である教員養成協議会等の支援体制のもとで取り組みを進めている。近年の学生の多様化に対応するため、学びの過程において乳幼児教育の専門性の高さを段階的に認識できるよう工夫している。1年次からのフィールド体験の実施や親子のひろば「ぼっけ」での地域の乳幼児との関わり、少人数での指導等、経験や学びを丁寧に積み重ねていけるよう配慮している。教員免許状の取得希望者をより増やすため、教職課程教育での学修成果を具体的な自身の成長として学生が捉えることができ、より意欲的に教職課程教育に臨めるような教育方法や学生との信頼関係の形成、学内体制のあり方の検討が課題である。

【社会学部現代社会学科】**〔現状説明〕**

現代社会学科では、学士課程の専門性と教職課程の専門性をバランスよく修得できるように授業科目を配置している。履修年次の段階に合わせて、実務経験のある教員を含めた教員、職員との協働体制を構築している。1年次には、現代社会学科卒業必修単位を中心に基礎的な知識の修得を目指し、社会科・公民科に対応する授業科目を配置している。1年次後期には、教育学全般の基礎理論を修得するため「教育学概論」等を配置し、2年次以降徐々に教職科目、なかでも実践的科目へとシフトし、教科指導法等において実践的指導力の育成に努めている。併せて「教職サポートセミナー」等キャリア支援を開始する。2年次後期には、実際に学校体験活動を行うことによって、3年次教育実習に向け準備段階として実践性を高める教育を進めている。こうした学外活動や、実習、介護等体験については、全学的組織であるこどもコミュニティセンターの職員と連携・任務分担して、学生が円滑に実習に取り組めるように支援を進めている。4年次後期の「教職実践演習」では、学生を実際に教師として送り出せるように、教職教育の総まとめとして担当教員が協働して行うように計画している。

〔長所・特色〕

教職課程の運営には学科専任教員が協力して臨む体制をとっている。教職課程の課題及び教職課程を履修している学生の学修状況については、学科会議及び教育実習運営協議会で情報交換しながら実態を把握し、学生の学修支援に活かしている。学外実習等については、こどもコミュニティセンターと連携し学生を円滑に実習に送り出す仕組みが整いつつある。さらに、拡大教員養成協議会を通じて、さいたま市を中心に地域との連携もできつつある。このように開設3年目にして、教職課程の諸活動を学科内から全学組織へ、さらに学外の地域連携へと広げ、教職課程の組織的体制が整いつつある。

〔改善に向けた課題〕

社会科・公民科に係る基礎知識の修得の観点を取り入れた厚みのある系統的な授業を学科全体で展開できるように、教員間の共通理解と連携強化を図る。教職課程を履修する学生一人ひとりを専任教員全体で把握し、教職を目指す学生としての成長を支援するとともに、学生の教育実習や学外活動が円滑に進むように努める。

また、教員養成を軸とする他学科（学校教育学科）で開講されている授業科目についても、社会科・公民科の教員免許状取得に有効かつ学びを充実させる上で履修可能かどうかを検討するなど、他学科との連携・協力を進める。同時に、大学全体での教職課程の一環として本学科が何を担うべきかについても模索する。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

【教職課程自己点検・評価の取り組み（3学科共通）】

より質の高い教員養成教育を提供するため、「教員養成協議会」を全学組織として設置し、各学科と連携し、教職課程に関する課題の検討や毎年度の自己点検・評価を実施している。同協議会事務局及び教職支援の各業務は、こどもコミュニティセンターが一体的に所掌している。各年度の自己点検・評価の結果における「改善に向けた課題」として指摘された事項については、次年度以降改善に向けた取り組みとして具体化していく。

【教員養成の状況の公表（3学科共通）】

教育職員免許法施行規則第 22 条 6 に定められている教員養成の状況については、次の内容を大学ホームページにおいて公表している。

(1) 卒業者の教員免許状の取得の状況

こども学部学校教育学科：2021 年度の小学校教諭一種免許状の取得者数

こども学部こども学科：2021 年度の幼稚園教諭一種免許状の取得者数

なお、現代社会学科は、設置後 3 年目に当たるため、免許状取得者は不在である。

(2) 卒業者の教員への就職の状況

こども学部学校教育学科：2021 年度の卒業者の教員への就職状況

こども学部こども学科：2021 年度の卒業者の教員への就職状況

【FD や SD の取り組みの展開について（3学科共通）】

本学では FD 活動の一環として全授業科目について授業評価アンケート及び FD 研修会を通じて授業改善への取り組みや教育課程編成・授業形態の検討を行っている。また毎月開催される SD 研修会で教職課程に関し必要な情報の周知・共有を図っている。

< 根拠となる資料・データ等 >

資料 8 - 1 : 浦和大学教員養成協議会規程

資料 19 : 授業アンケート実施状況 (FD 委員会教授会報告)

資料 20 : FD 研修会実施状況 (FD 委員会教授会報告)

資料 21 : SD 研修会資料 (教職関連)

データ : ホームページ (教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報公表)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

大学案内や募集案内に示している求める学生像（アドミッション・ポリシー）にも述べている「初等教育の実践者になろうとする強い意志を持ち、主体的に学ぶことのできる人」を観点として選考している。このような教育実践者の育成を目指し、各科目の履修年度を決めている。これらの履修がより有意義で学生一人ひとりの育成を効果的なものにするため、学科定員を適切な規模に設定している。その結果、教職への就職率は高くなっている。開設6年目という歴史も浅い学科ではあるが、入学する学生の教職に関する興味関心や意欲が高い状況である。

学生数の確保が急務な中、本学科ではオープンキャンパスの充実を図り、学科の魅力を理解してもらい入学生確保に努めている。毎年のオープンキャンパスにおいて、パワーポイントによる学科説明、教員による授業体験、学生による学内ツアーを中心に、来学者に他大学にない本学科の魅力をしっかりと感じてもらうことに尽力し、趣旨に合う学生を受け入れている。入学後は、「スタディナビゲーション」で学生個々の強みを把握し、教職に向けた学修に取り組むよう計画的な指導を行っている。

〔長所・特色〕

入学直後から、計画的に児童に関わることをねらいとして、教育インターンシップを中心に活動を実施している。1年次では「チャレンジスクール」の必修活動として、放課後と土曜日に児童の学習と遊びの活動支援を行っている。児童は、大学生ということから親しみを持ち関わっており、本学科生も学習支援や一緒に体を動かすことで児童の実態が把握できるという長所がある。また、2年次より行っているさいたま市とのコラボ事業「アシスタントティーチャー」では、毎週活動校の教室に入り、担任の授業や教育活動の補助をしている。児童との活動を通して、大学で学んだことを試したり活動を通して不明な点を大学の授業で解消したりするなど、理論と実践の結び付けができています。また、「学校」について早い時期に知ることができ、教師の動きや教育活動の実際を年間を通して学ぶことができる。この活動が、3年次での教育実習に生かされるとともに、早い時期から教師の魅力を感じ、教職を担おうという意識を高めることができています。

〔改善に向けた課題〕

教職を希望する学生は、ほぼ全員が教職に従事するという高い就職率となっており、小学校現場での本学卒業生の評価は高い。さらに教職就職数を増やしていくことが課題である。

今後、オープンキャンパスや高校訪問を通じて広く本学科の特徴を知ってもらい、多くの高校生を入学に結び付けることが重要である。そのため、ホームページでの本学科の紹介、オープンキャンパスでの在学生との関わりを厚くするなど、さらなる充実を通して広

く高校教員や高校生に認知してもらうことや、教員採用試験対策に特化した教職サポートセミナーへの出席率を向上させ教員採用試験の合格者数を増やし、学校現場で活躍する人材を多く輩出することにより信用と実績を積んでいくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料 2：大学案内 2023

【こども学部こども学科】

〔現状説明〕

「大学案内」「学生募集要項」において幼稚園教諭 1 種免許状等を取得できることを明記するとともに、教職課程で学び幼稚園教諭を想定した学生像を、学科のアドミッション・ポリシーに「求める学生像」として示し、オープンキャンパスでの学科説明や個別相談、入学前セミナーにおいて説明している。入学後は各期オリエンテーションや「スタディナビゲーション」の授業において教職課程の科目一覧（教員免許状取得のための履修単位チェック表）等を用いて履修指導、教職課程のカリキュラムの特色や履修趣旨についての説明を行っている。各期ごとに学びを振り返り自身の課題を見出せるよう、教職履修カルテの記入、クラスアドバイザー・ゼミ担当教員との面談を行い、幼稚園教諭としての資質・能力修得に向けて継続的な学修を促している。

〔長所・特色〕

ディプロマ・ポリシーに提示している、乳幼児教育に携わる者として卒業までに身に付けることが望まれる資質・能力、そしてカリキュラム・ポリシーを達成するための具体的な教育課程の編成や履修の進め方等について、アドバイザー教員が、「スタディナビゲーション」の授業やゼミ、個別指導を通して指導する体制をとっている。こども学科では、幼稚園教諭としての実務経験を有する教員も多く、保育内容の指導法、幼稚園教育実習指導、教職実践演習等の授業科目において理論と実践の融合を意識し、幼稚園教諭の育成に努めている。特に「保育・教職実践演習(幼稚園)」の授業においては、実務経験を有する教員が幼稚園での勤務経験を活かし、事例研究、グループディスカッション、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を駆使して幼稚園教諭としての資質を養い、就職後の教育実践へとつなげている。

〔改善に向けた課題〕

こども学科では 4 年間での学修期間の中で、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格両方を取得できるカリキュラムを組んでいる。1 年次からフィールド体験や学内の親子のひろば「ぽっけ」への参加経験、「スタディナビゲーション」の授業での一人ひとりの学生の履修指導を通じて、幼稚園教諭の育成に努めて一定の成果を得ている。一方で近年の入学生の多様化に伴い、幼稚園教諭免許状の取得の希望を叶えられない学生も見受けられる。教職課程が「求める学生像」についてオープンキャンパス等において更なる周知を進め、幼児教育に携わる者としての適性を引き出す教育の工夫とともに、アドミッション・ポリシー

を反映した入試のあり方や学生確保の方法について検討することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料2 : 大学案内 2023

資料5-2 : こども学科シラバス (教職課程に関わる授業科目)

【社会学部現代社会学科】

〔現状説明〕

アドミッション・ポリシーを踏まえて募集活動を行い、入学時のガイダンスでは入学者全員に教職課程の説明を行っている。現代社会学科の卒業要件単位(124単位)に加えて、卒業要件単位に含まれない「教職科目」の区分から免許種ごとに指定された単位数を取得することにより、「中学校教諭一種免許状(社会)」「高等学校教諭一種免許状(公民)」の取得を可能としている。教員免許状取得を本学の校訓「実学に勤め徳を養う」の趣旨に叶うものと位置付け、広範囲な授業科目や教育実習を修得して充実した学生生活を送ることができることを考慮し、教職課程の履修を薦めている。入学後は、前期後期のオリエンテーションにおいて、年次ごと教員免許状取得までの科目履修方法を丁寧に示し、円滑に履修できるように配慮している。「教職履修カルテ」は、2年次前期に教員免許状取得の意向が固まった後、学期ごとに作成し、履修生は各自の学習成果を可視化するとともに課題を見つけその解決へと努めている。その際に、学生の適性或資質に応じた指導を行っている。

〔長所・特色〕

現代社会学科では、教科に関する専門知識と教科の指導法を一体的に学びながら、中等教育段階の生徒に対する理解と、学校現場を取り巻く社会的課題に対する認識を深め、教師に求められる総合的な指導力を高めている。学科専門科目の中には教職・教科に関連する授業科目も多く、社会科・公民科に関わる知識の幅を広げ且つ関心を深めることに役立っている。なかでも、「観光とまちづくり」等の専門科目では、地域の諸課題の解決と観光の視点からまちづくりに関わる事項を学び、また「世界遺産論」等により地域社会の歴史と地理、そこに生まれた文化を活かした主体的な取り組みについて学ぶことから、履修生各自の興味関心を引き出すことができるとともに社会科・公民科の指導法へとつなぐことができている。

教職課程では少人数教育の利点を活かし、学生一人ひとりの興味関心、適性に応じた学修支援・キャリア支援を学科全体で協力しながら行っている。

〔改善に向けた課題〕

現代社会学科では、3年生で「教育実習」を履修するためには、1年次、2年次に配当される卒業必修単位に加えて、卒業要件単位に含まれない「教職科目」の履修が必須となり、多くの履修科目数が必要である。学生生活にふさわしい学びをするために本学科では履修制限(キャップ制)が設けていることを周知し、1年前期から一年間の修得単位の上限を見据えて専門科目と教職科目の配分を各人で計画できるよう促していく必要がある。

少人数教育体制を活かして、教職を履修している先輩学生のアドバイスを取り入れるなど、教職履修者一人ひとりが円滑に教職科目を履修し、履修要件を達成した上で教育実習に臨み、教師への道へとつなげることが課題である。さらに、少人数授業においても協働学習や模擬授業などが活発に実施できる履修人数を確保し、そこからより多くの社会科・公民科教員を養成していくことが望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

学校教育学科では、模擬教室を活用した教科指導法や教員採用試験対策にむけて一人ひとりの資質を向上させることをねらいとした教職サポートセミナー、少人数で個々の悩みや進路決定の相談・支援をねらいとしたアドバイザー制度の充実を図っている。

学生の不安の原因である学習指導や学級経営のあり方を、実際の小学校教室を再現した模擬教室を利用することにより、現場での雰囲気の中で学習が進められている。「教職入門」や「教職実践演習」の授業を中心に、学級経営に有効な掲示物のあり方を考え実際に作成している。

また、教員採用試験に向けて学生一人ひとりの基礎的な力を計画的につけていくことをねらいとして、1年次より専門教員による国語力向上セミナー、英語力向上セミナー、数学集中セミナー、論文や面接対策セミナーを実施している。

さらに、教育委員会の職員を招き、教職に向けた意欲の向上をねらいとして学生に向けて講演会を開催している。昨年度は「教員の計画的な育成について」をテーマに講演会を開催した。また、卒業生を招いた懇話会を実施し、教師の魅力や生活、児童や保護者の実態など、在学生に対して、より具体的な内容の情報提供を受けている。

〔長所・特色〕

学生にとって教育実習での経験が教職への大きな原動力になっている。そのため、教育実習直前に模擬教室を活用した全員の模擬授業を実施している。授業科目「教育実習指導」での学修をもとに、実際に45分間の授業を想定し学習指導案をつくり、ゼミ担当教員の指導を受けながら、具体的な授業を作り上げていくことが学生の不安解消に大きく寄与している。模擬授業では、板書計画を作成し実際にチョークで板書したり、黒板に貼る掲示物を文字の大きさや濃さなどを実際に現場で用いられている黒板に合わせて調整し作成したりできることも有効である。

また、3年次から本格的に実施される教員採用試験に向けた「教職サポートセミナー」では、教員経験者や校長経験者による本学オリジナルのテキストを作成し、それをもとに論文作成や面談対策などを実施している。

<根拠となる資料・データ等>

資料 17 : 教職サポートセミナー計画

資料 113 : 面接試験テキスト ー問題編ー

資料 114 : 論文試験テキスト

【改善に向けた課題】

教職に向けて不可避の教員採用試験合格は本学科の大きなねらいである。充実した教職サポートセミナーのカリキュラムは確立しつつあるものの、通常授業との関係で出席しにくい状況にあることが少なくない。関係部署との連携を図りながら、教員採用試験や教職に向けて計画的に学修を進めていけるような時間割を工夫したり、出席を促す指導を継続したりすることが課題である。

また、教育実習を終えると教職への意思が高くなる一方で、現場で児童や教員、保護者の様子、勤務状況などを知り、教職に就くことへの不安を訴える学生が増えることもある。いかに教師の魅力を伝え、教職の価値を理解させていくかが課題である。

【こども学部こども学科】

【現状説明】

キャリア支援については、学生・就職課によって計画的に実施されている。それと並行して、こども学科においても1年次から2年次にかけて配置している「スタディナビゲーション」を始め、クラスやゼミでの個別面談等を通じて日常的、継続的に学生のキャリア支援に取り組んでいる。「スタディナビゲーション」では1年次の早い時期に自分の生き方・働き方を設計するキャリアデザインについて考え、教職課程教育を含め、自身のキャリアの糧となる学び、経験を大学4年間でどのように積み重ねていくか、4年間のタイムテーブルを作成している。また「教職概論」「保育者論」等の専門科目を通じて、教員や保育者のあり方、自身の適性について考える機会が設けられている。実際の就職活動に当たっては、学生・就職課による支援とともに、小学校校長や幼稚園教員の実務経験を有する教員が、就職面接や小論文の指導に当たっている。

【長所・特色】

1, 2年次はクラス、3, 4年次はゼミと少人数のクラスを編成しており、クラス、ゼミを担当するアドバイザー教員は毎週授業で担当学生と顔を合わせるほか、前期・後期に各2回の個別面談を実施しており、学生の教職への意識や適性を把握した上で個々のキャリア支援に当たっている。学生・就職課がキャリア支援の一環として実施している「自己整理シート」等も、アドバイザー教員との面談の中でその評価を振り返るなど、より有効に活かしている。また実習園からの求人、実習生に対する園からの就職の打診などを実習担当教員、実習巡回教員が学生・就職課や園から当該学生に紹介したり、前述のように小学校校長や幼稚園教員の経験のある学科教員が就職面接や小論文の指導に当たったりする等、学生と教員の距離が近い小規模な学科ならではの支援を行っている。

〔改善に向けた課題〕

近年の保育者不足を受け、実習園からも直接に求人の相談があることも少なくない。教職課程を有する大学としては、地域の幼稚園に対して実習園として協力を依頼するだけでなく、幼稚園教諭を輩出して地域の幼児教育に貢献したいと考えるところである。幼稚園教諭としての就職率を高めるために、教職へのキャリア支援として、学生の幼稚園教諭としての基礎的、実践的な資質・能力の修得や教員採用や採用試験に向けた支援だけでなく、たとえば就職して1～2年の新人教諭、就職して数年の中堅教諭やベテランの幼稚園教諭を招いてのシンポジウムや、幼稚園でのインターンシップ等、職業としての幼稚園教諭の魅力を十分に伝え、学生が幼稚園教諭としての自分の未来をイメージできるような取り組みの検討が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料5-2：こども学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

【社会学部現代社会学科】**〔現状説明〕**

現代社会学科は、同一の学校法人が設置する浦和実業学園中学校・高等学校の協力を得て学校体験活動を実施し、高校教員と連携して指導に当たっている。「教職サポートセミナー」において採用試験に向けて、学生一人ひとりの教科等の知識をつけていくことをねらいとした試験対策や論文対策を進めている。現代社会学科専任教員によるキャリア科目「ビジネスマナー」「サービス接遇演習」「キャリアデザイン」の授業は、社会人や組織人としての素養を身に付ける機会となっている。

〔長所・特色〕

教職に就こうとする学生の意欲や特性は、教職専門の教員の行う個人面談と合わせて複数の教員が行う個人面談によって把握されている。現代社会学科では、全員が「スタディナビゲーション」や「卒業研究」を履修しており、担当教員によって教職を始め職業への意欲や適性を把握する方策をとっている。このことは、汎用性のあるキャリア教育を目指す現代社会学科の方針とも合致している。また、学校教育学科の施設である模擬教室を活用して、実習前に授業や板書の練習ができることは教育実習に役立っている。

3年次以降は、市の教員採用についての説明会等に参加するなど、教師への道を積極的に開拓するよう促している。

〔改善に向けた課題〕

学科完成年度に向けて、2023年度は教職志望学生へのキャリア支援が本格化する時期である。教育実習が実習生及び教育実習現場にとって実りあるものとなるよう、2022年度の教育実習の経験から今後の改善点を見出し、即戦力となれるようにキャリア支援を行っていく。まずは、教職カルテを有効利用し、一人ひとりの学修成果を可視化するとともに、

しっかりと課題と向き合いその克服に努め、「教職実践演習」において教職に就く者として仕上げをした上で、社会に送り出す計画である。

教員免許状取得にむけて、学内の先輩である学校教育学科のキャリア支援の方法に学び、教職資格者をひとりでも多く増やしていく工夫が求められると同時に、教職サポートセミナーへの参加を一層促進し、学修を深め、採用試験に対応する力をより確実なものにする必要がある。

【教職に関する各種情報の提供（3学科共通）】

学生が教職に就くための各種の情報の提供については、次のように行っている。

(1) こどもコミュニティセンターにおける関係資料の提供

- ・ 学習指導要領及びその解説等の提供
- ・ 検定教科書の提供
- ・ 教員採用試験の募集関係資料の提供
- ・ 教員採用試験の試験問題関係の資料の提供
- ・ 教員採用試験に関する各種参考書の提供
- ・ 教職関係書籍、雑誌

(2) 図書館における関係資料の提供

- ・ 教育の基礎的理解に関する書籍の提供
- ・ 教科等の教育に関する書籍の提供

<根拠となる資料・データ等>

資料 16：教職課程に必要な教材・教具（こどもコミュニティセンター・教務課保管）

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

【建学の精神を具現する特色ある教職課程教育について（3学科共通）】

各学科それぞれのカリキュラム・ポリシーに従い教育職員免許法施行規則に基づき教育課程を編成している。授業科目の構成、卒業要件や必要単位数を把握し、基礎から順次ゆとりを持って履修できるようにキャップ制を実施している。学科専門科目と教職科目が有機的・系統的に学修できるように配置するとともに、実践的指導力をつけるために体験活動（インターンシップ、学校体験活動、ボランティア）を経て教育実習に臨むよう設定している。教職実践演習において振り返り・仕上げをした後、教員として送り出すことにより、建学の精神にある「実学に勤め徳を養う」を具現すべく教職課程教育を行っている。

＜根拠となる資料・データ等＞

資料 4-1：学校教育学科教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

資料 4-2：こども学科教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

資料 4-3：現代社会学科（中免・高免）教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

教育課程については、基礎的教養を学ぶための「人間総合科目」、こども理解を包括的に学ぶ「こども総合科目」、専門分野について総合的に理解するための「教育専門科目」に大別し、編成している。

また、「スタディナビゲーション」を1,2年次にわたって展開し、大学生としての学びの技術、学修の姿勢と意欲を形成している。さらに、将来を意識したキャリア教育の授業科目を2年次から体系的に配置し、教育実習やインターンシップなどに関連付けながら、社会人としての基礎的な能力と実践力を高めている。加えて、今日的な学校教育の課題に対応することをねらいとして、「学校教育の現代的課題」「こどもの安全と危機管理」「教育の方法と技術（ICTの活用を含む）」では、実務経験のある教員が具体例を積極的に織り込み授業を進めている。

これらの授業を履修することにより、小学校教諭一種免許状を取得することができる教育課程になっている。また、小学校教諭一種免許状取得を前提に他学科で必要な単位を取得することにより、幼稚園教諭（一種または二種）免許状、または中学校教諭（一種または二種）免許状（社会）を取得することができる。

〔長所・特色〕

小学校教諭免許状を取得するため、1年次より計画的に履修できるようカリキュラムの編成を工夫している。なかでも教師としてその根幹である児童との関わり方については、

本学科の最も大切にしている内容である。近隣の小学校と連携し、1年次では「教育インターンシップA（必修）」において、定期的に児童の放課後や土曜日の学習や遊びの支援を行っている。また2年次からは、さいたま市教育委員会の「さいたま教育コラボレーション構想」と連携し、アシスタントティーチャーとして教員の補助・支援活動を行い、学校生活を通して児童との関わりについて学んでいる。

さらに、各教科指導法では、学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びやアクティブラーニングを取り入れた授業のあり方について、模擬授業を通して身に付けている。これらの活動を通して、児童との関わり方や学年による行動や考え方の実態を教育実習に生かすことができ、実習が実りあるものになっている。また、「こども理解と観察（必修）」では、乳児の観察を行い、乳児の成長過程を理解することにより、小学校教諭としての幅を広げることをねらいとしている。

これらの学びを、電子化された履修カルテに記録し、教職に対する効果的な学びに活用している。

【改善に向けた課題】

小学校教諭免許状を取得するための授業は計画的に設定されているものの、時間割上2年次後期に必修授業が集中する傾向となっている。そのため、課題作成や提出に追われ、じっくりと教材研究をし、教材の本質や授業の効果的な進め方を検討する時間が十分とれないことも考えられる。また、教育インターンシップについても、教職に関わる授業科目や興味がある授業科目と重なることがある。さらに、幼稚園教諭や中学校教諭免許状取得のため、他学科の授業科目を履修する際に、学科の授業と重なることもある。教育実習においても他学科の動向との調整が必要である。以上のように教育課程をより円滑に運営する上での課題を整理し、どのように改善していくか検討することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

【こども学部こども学科】

【現状説明】

教育職員免許法施行規則に基づき、教育課程を編成・実施して豊かな保育を提供できる幼稚園教諭の養成を目指し「領域及び保育内容の指導法に関する科目」区分のうち「領域に関する専門的事項」すなわち5領域の専門的事項の取得単位を2単位（教育職員免許法施行規則では1単位）とすることにより、保育内容の理解を促し、それを保育内容の指導法に反映できるよう教育課程を編成している。授業担当教員はコアカリキュラムの確認とともに、授業の目的に応じたICTの活用、アクティブラーニングの活用等学習活動の工夫を行い、それらをシラバスに明記している。教育実習の実施にあたっては、「保育原理」「教育原理」「保育内容総論」「発達心理学」が履修済であること等の履修要件を定め、実習指導においては少人数でのグループ指導により、指導案の作成、模擬保育を複数回実施する等事前・事後指導を丁寧に行っている。巡回指導時の記録は実習園ごとの報告書とともに

学生個々の実習履歴への巡回記録の記載を行い、学科教員間での共有を図っている。

〔長所・特色〕

豊かな保育を提供できる幼稚園教諭の養成を目指し、「大学が独自に設定する科目」として「フィールド体験」「絵画制作」「造形表現」「自然観察」「あそびと科学」「ピアノ基礎A」「ピアノ基礎B」を、こども専門科目の科目区分には「児童文化」「絵本学」「幼児体育」「ストリートダンス」「スクールガーデニング」等の授業科目を配置し、保育への実践的理理解を図り、保育内容の技能を深めるための学びを充実させている。教職課程必修科目の「カリキュラム論」を始め保育内容に関する授業科目、学科科目である「保育の計画と評価」等多くの授業科目で指導案の作成と模擬保育の演習を取り入れ、実践に即した学びを提供している。また子どもに関わる専門職の立つべき基盤として、近年の子どもを取り巻く諸問題に対応する視点を養いその解決を考えるために、教職課程のカリキュラム外ではあるが、「こどもの権利」「現代家族とこども」「こどもの安全と危機管理」等の授業科目を設けている。

〔改善に向けた課題〕

ディプロマ・ポリシーで述べられているこどもに関する専門的知識の修得、こどもの最善の利益を尊重する視点、こどもの表現を感受できる自由な心、こどもたちと信頼関係を育む態度、こどもの文化への基礎的知識、実践に役立つ技能・技術、家族・地域社会・現代社会とこどもの関係への理解等については、教職課程カリキュラム及び教職課程以外の学部・学科の授業科目において学びを図っているところである。「現代社会に対応した情報リテラシ」については、「教育職員免許法施行規則第66条の6 情報機器の操作」に該当する授業科目として「情報リテラシⅠ(基礎)」「情報リテラシⅡ(応用)」を設けているが、情報リテラシの基礎的な能力を身に付け、急速に高まっているICT教育の必要性を鑑み、幼児教育の場におけるICTの活用能力を高めることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料5-2：こども学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

資料6：シラバス作成依頼文書（2021年12月）

【社会学部現代社会学科】

〔現状説明〕

教育職員免許法施行規則に基づき教育課程を編成している。「教科に関する科目」においては、学科の特性を活かした専門科目が盛り込まれ、社会科・公民科の知識を豊かに且つ深く掘り下げて学ぶ授業科目となっている。また、「教育の基礎理解に関する科目」には、現代社会の課題に対応して「学校安全と危機管理」や「学校と地域連携」などの授業科目を配置し、実践的で充実した内容となっている。担当教員は、授業内容がコアカリキュラムに対応し適切なものになっているかを確認するとともに、必要に応じてICTの活用等をシラバスに明記し、授業が実りあるものとなるように努めている。3年次で履修する「教

育実習」に関しては、2年次末までに「学校体験活動」を修了していることや規定の単位を修得していることを履修要件として定めている。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

〔長所・特色〕

教職科目については卒業単位に含まれないものも多いが、1年次より計画的に履修できるようにカリキュラムを編成している。教職科目における「教科に関する科目」は、現代社会学科の専門科目との関連が深く、社会科や公民科に関する知識の幅をさらに広げる授業科目や現代社会の課題について深く掘り下げる授業科目を1年次より順次履修できるように配置している。本学科では、1年～2年次に「スタディナビゲーション」を必修科目として配置し、アクティブラーニングやグループワークを学科の学生全員に課していることや、スーパーメディア教室を使用して行われる「社会調査」等の必修専門科目は、教職科目において必要とされるアクティブラーニングの手法やICT教育技術に資するものとなっている。

<根拠となる資料・データ等>

資料4-3：現代社会学科（中免・高免）教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

〔改善に向けた課題〕

教育実習を実りのあるものにするため履修要件を設けるなどカリキュラム編成上の工夫はなされているが、2022年度実際に教育実習を経験することによって、授業運営や学級経営に関する実践的指導力を育成することの重要性が改めて認識された。授業展開で求められる指導法修得については授業科目や事前指導において徹底し、また教師や生徒とのコミュニケーション力をつけていくためには、体験活動を増やしていく必要がある。現在実施している「学校体験活動」に加え、学校ボランティア等の自主的な体験を促していく。

さらに、カリキュラム上での専門科目と教職科目の関連性や協力体制を充実させる。専門科目の学びが教職科目において、また教職科目の学びが専門科目の学びを豊かなものにしていくための方策を学科教員全員で検討していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料1：STUDENT HANDBOOK 2022年度

資料4-3：現代社会学科（中免・高免）教職課程設置時の目標と計画（教職課程認定申請書抜粋）

【教職課程シラバスにおける学修内容や評価方法等について（3学科共通）】

教職課程シラバスについては、課程認定の際の教育内容を継承し、規定の様式で作成後シラバスチェックを行っている。学科等の目的を踏まえ、コアカリキュラムに対応する教職カリキュラムを編成し、ICT 機器の活用など今日的な課題にも対応している。また、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明示することにより学修成果を確実なものにするよう努めている。学期末には、授業アンケート等を踏まえ、授業内容や評価方法が学生の学びを促し適切な指針となりえたかについて振り返りを行い授業改善につなげている。

<根拠となる資料・データ等>

資料5-1：学校教育学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

資料5-2：こども学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

資料5-3：現代社会学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

資料6：シラバス作成依頼文書（2021年12月）

資料7：シラバスチェックの要領

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

【こども学部学校教育学科】

〔現状説明〕

教科等の指導法は、小学校の全教科等について授業科目を設置している。そこでは、学習指導案の作成や模擬授業の実施、教材作成や教材研究など、実践力の育成に力を入れている。特に模擬授業では、学生全員が教師役となり、実際の授業での展開方法や児童への支援、板書やノート指導など、具体的な場面を想定し学んでいる。これらの実践をもとに、教育実習直前には、全員が45分間の模擬授業を実施し、その後研究協議会を設け、具体的実践をもとによりよい授業に向けた指導を行っている。

チャレンジスクール活動（教育インターンシップ）では、近隣の小学校に出向き、放課後や土曜日に学習や活動支援を行っている。そこでは、地域のスタッフと学生が協力をして、児童の宿題や理解が不十分な内容について、個々に指導を行っている。年度初めは戸惑っている学生も、回数を重ねるにつれ児童の実態に合わせて分かりやすく言葉をかけ、助言を工夫する姿が見られるようになる。これらの活動に対し、担当教員の巡回指導や学期末に行う活動の振り返りの授業を通して、より実践的な指導力が育成されるよう取り組みを進めている。

〔長所・特色〕

学校教育学科では、実践的な指導力の育成に加え、地域との協働に重きを置いている。その中の一つは、チャレンジスクール活動でありアシスタントティーチャーである。チャレンジスクール活動では1年次より児童と接する活動を行い、こどもへの声掛けや接し方、距離感の把握を学修する。例えば学習指導でも、ただ計算の仕方を教えるのではなく、その仕組みや求答の要領なども丁寧に教えなければ伝わらないことを実感する。この経験が

教科指導法の授業に役立ち、教科指導法で身に付けた内容をこどもたちに返すという好循環になっている。

また、学習指導要領に基づく実践的指導力の向上を図るとともに、GIGA スクールに対応すべく小学校現場で実際使用されているデジタル教科書やコミュニケーションツール、学習支援ソフト等の紹介や使用方法についても指導している。

「1日大学生」という公開講座では、市内外の小学生対象に、学生が中心になり算数や理科などを題材として興味関心を高める授業を実施している。小学校の授業ではなかなか取り組むことができない実験（アイスクリーム作りや立体カードづくりなど）を行い、保護者にも評価が高い。また、児童支援だけではなく、学生による工作や理科実験指導などのコンテンツを担い、児童の興味関心が高まる内容や実施方法、使用教材などを何回も検討を重ねて行うなど、実践的指導力を身に付けている。

さらに、近隣の小学校で実施される「徒歩遠足」の引率補助活動も実施している。本学科の学生が教員や保護者、地域の方と活動し、児童の安全を見守ったり、交差点で交通整理をしたり支援をしている。これらの活動は、地域との連携を深めることに加え、教師として危機管理や安全管理意識を身に付けるのに大きく寄与している。

〔改善に向けた課題〕

学科開設以来の活動を通し、地域との連携が強化されている。定期的な小学校との交流活動に加え、地域の小学校の行事に協力する機会も増えてきた。

一方で、教育インターンシップで学生が主催する理科実験や工作などの活動を企画・検討する時間が思うように取れない場合もある。また、学生の授業日との兼ね合いで地域スタッフとの連絡調整が思うように進まないこともある。地域関連の事業は、主に土日を中心とした活動になり、参加学生の確保も課題になる。

<根拠となる資料・データ等>

資料 14: 教育実習・教育インターンシップ・介護等体験・学校体験活動実施状況

【こども学部こども学科】

〔現状説明〕

こども学科では、ディプロマ・ポリシーにおいて「保育、福祉、幼児教育の実践において役立つ多様な技能・技術を身に付け、それをこどもたちへの関わりに活かせるよう実践的学修を積んでいること」を掲げており、実践的指導力をもつ乳幼児教育者、保育者の育成に力を入れているところである。また、地域との連携についても、同じくディプロマ・ポリシーにおいて「家族、地域社会、そして現代社会との関係で、こどもを理解する視点を養い、幅広い人々の参加を促しながら地域社会の創造を促す重要性と、そのための実践のあり方について考え、判断し、基礎的なことがらを理解しようとしていること」を掲げている。これを受けて家族支援や地域支援に関する授業科目を設置するとともに、学内に親子のひろば「ぼっけ」を開設して実践的学びを提供している。

〔長所・特色〕

こども学科では「領域及び保育内容の指導法に関する科目」区分のうち、「領域に関する専門的事項」の修得単位数を5領域すべてについて2単位（教育職員免許法施行規則の基準では1単位）として充実させ、「大学独自科目」においても豊かな保育実践の基礎となる学びを提供している。保育内容各領域の指導法の授業においては、指導計画の作成、模擬保育の実践と振り返りの複数回の実施を通じて、また領域に関する専門的事項の授業科目においても事例検討や指導計画の作成等学生の主体的・対話的な学びを通じ、実践的指導力を有する乳幼児教育者、保育者の育成を行っている。保育・教職実践演習においては、幼稚園教諭としての学びの集大成として指導計画の作成、模擬保育を行い、4年間の学内での幼稚園教諭としての学びと幼稚園教育実習、保育実習で得た指導力・幼児理解力等実践力との統合を図っている。学内の親子のひろば「ぽっけ」は、地域支援、地域との連携についての実践的な学びの場であるとともに、実際に乳幼児や保護者と関わる経験を重ねることにより、共感的人間理解と観察力を育み、保育実践力を向上させる場となっている。

〔改善に向けた課題〕

学内の親子のひろば「ぽっけ」では、学生はこどもの発達を体感的に理解し、保育実践力を高めるだけでなく、乳幼児や保護者、保育スタッフとの関わりから共感的人間理解と観察力を育てている。学生が親子と関わる体験を重ね、積極的に教育実習に臨めるよう、模擬保育や教材研究、指導案の作成等、より実践的、体験的な学修が可能となるような教育方法の開発が課題である。学生がボランティア活動等地域での活動に参加し、それをより積極的に活かせるような取り組みについて検討することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

資料1 : STUDENT HANDBOOK 2022年度

資料5-2 : こども学科シラバス（教職課程に関わる授業科目）

【社会学部現代社会学科】

〔現状説明〕

現代社会学科では、教育実習の前に履修要件として、併設の中学校・高等学校で2年次に「学校体験活動」を課している。2日間であるが学校行事・文化祭の手伝いを通して、学校現場をよく見聞きし生徒と関わる中で実践的指導力を体得するよい機会となっている。

地域連携については、授業科目「学校と地域連携」の中で地域連携の必要性を学ぶと同時に、実際に地域連携のモデルを開発していくことも可能となっている。

「スタディナビゲーション」で1年次に埼玉県選挙管理委員会・さいたま選挙カレッジによる出前講座「選挙啓発講座」を受講している。授業の中で「模擬投票」を経験することは、教員を志望する学生にとっては、中学校、高等学校の社会科・公民科の授業で活用できる経験であり、自らが受講生として経験したことを、教師として、授業に活かす貴重な資源ととらえることができる。また全学共通科目の「キャリアインターンシップ」では、団体・企業へのインターンシップ参加を通じて、実社会を経験する機会を提供して

いる。

〔長所・特色〕

併設中・高等学校との連携により「学校体験活動」が実施されているが、学校・大学間での事前打ち合わせや履修生の事前・事後指導を行うことにより、双方に実りある体験活動となっている。こうした学外実習の際には、全学組織であるこどもコミュニティセンター職員のきめ細かい支援により円滑な取り組みができています。

こどもコミュニティセンターには、さいたま市立中学校で社会科教員及び校長経験のある講師を配置し、学修支援に携わるとともに近隣中学校との連携も進めている。

また、埼玉県選挙管理委員会・さいたま選挙カレッジの出前講座と連携して講座運営を行っており、教職課程の履修生がそこでリーダーシップを取って関わることにより、社会科・公民科の授業で活用できる実践的指導力を身に付ける機会となっている。

〔改善に向けた課題〕

教職課程では、履修生を教育実習に送り出すまでにある程度の実践的指導力の育成が求められる。授業科目の中に「模擬授業」等をしっかりと位置づけ、指導案作成と模擬授業を繰り返し行うなどして自信をもって授業運営に臨めるように指導するとともに、実習中の課題を実習後に解決していけるように教員が連携し事後指導を行う必要がある。「履修カルテ」を活かして学修の課題解決を図り、最終的には「教職実践演習」で仕上げをする計画である。

地域連携については、近隣の中学校や高等学校との交流を模索中である。拡大教員養成協議会等で交流の始まった近隣中学校に、学生の部活ボランティアやアシスタントティーチャーを定期的に送ることから連携を進めていくことが課題である。

【大学と教育委員会等との組織的連携協力体制について（3 学科共通）】

「拡大教員養成協議会」を年1回開催し、実習校、実習園、さいたま市教育委員会、幼稚園協会等外部機関の出席を得て本学教員養成について意見や要望を聴取して教職課程の向上に努めている。

また、教員採用説明会を自治体別に毎年度開催し、求める教員像や採用選考に関する情報を学生に提供している。こうした連携協力体制を推進することにより、学校教育学科では、複数の自治体から特別推薦の枠があり、意欲ある学生を教育現場に送り出す動機づけにもつながっている。

【教育実習の充実のための教育実習協力校との連携について（3 学科共通）】

教育実習協力校との連携を図る本学の部署は「こどもコミュニティセンター事務室」であり、教職支援部門を設けて、教職サポートセミナーの企画、実施、教員採用試験に向けた学修支援等を行っている。実務経験を有する「特別招聘講師」が在籍しており、実習校や教育インターンシップ（学校教育学科）実施校との連携を十分に図り、円滑に学外での活動に取り組めるよう支援し機能している。

<根拠となる資料・データ等>

資料 9 : 教員養成協議会開催状況

資料 11 : 拡大教員養成協議会実施状況・次第 (2022 年度)

資料 14 : 教育実習・教育インターンシップ・介護等体験・学校体験活動実施状況

資料 22 : こどもコミュニティセンター規程

資料 23 : 教員養成協議会規程

資料 24 : 自治体による教員採用説明会実施記録 (2022 年度)

Ⅲ. 総合評価

<こども学部学校教育学科>

小学校教諭免許状取得に向けて、教育内容面と環境・施設面の両面から充実した教職課程の運営を行っている。本学科では、1年次より様々な機会と授業を通してこどもとの関わりを重視し、それにより「様々な場面でスムーズに児童と関わる事ができた」という感想が多く寄せられている。また、小学校の模擬教室を利用した指導法の研究と模擬授業の実施は本科の大きな特徴である。通常授業での使用の他、教科指導のスキルアップのため、学生が自由に自主的に使用する姿を数多く見受ける。さらに、開設6年目という浅い歴史ではあるが、教職サポートセミナー等の支援体制、教育委員会や地域との連携が毎年充実してきている。学生定員確保に向けた取り組みを充実させ、教育現場に数多くの卒業生を輩出するよう努めている。

<こども学部こども学科>

学内に親子のひろば「ぼっけ」を開設し、学生が授業や自主的な参加を通して乳幼児の発達や保護者支援、保育技能を実践的に学べる環境を整えている。専門科目では保育内容の理解、指導法、保育技能に関する授業科目を充実させ、少人数での模擬保育やロールプレイを活用した授業を展開している。これらの指導は実務経験を有する教員によって、より実践的な学修となるよう配慮している。また「スタディナビゲーション」やキャリア関連科目を通じて職業人、社会人としての心構えや素養を醸成する等、保育者、教職へのキャリア支援に取り組んでいる。教職を希望する学生を確保し、教職を担うべき学生の育成に努めている。

<社会学部現代社会学科>

「中学校教諭一種免許状(社会科)」「高等学校教諭一種免許状(公民)」取得に向けて、現代社会学科の専門科目を基盤として、教職科目を中心に教育内容面とICT教育環境面の両面から充実した教職課程の運営を行っている。学科の専門科目は、中学校社会科、高等学校公民科の授業内容を専門深化させることに有用であり、社会調査士関連科目でSPSS(統計解析ソフト)を使用した調査集計分析等を学ぶことにより、実践的なICT教育の機会を用意している。

学科開設3年目であり、教職に向けた取り組みは、学科専任教員全員で連携し、教職を目指す学生全員が教員免許状を取得し、現代社会学科の卒業生として教育現場に輩出できるよう努めている。

<大学の教職課程全体>

浦和大学では、大学及び学部・学科ごとに3つのポリシーを定めるとともに、大学と各学科における教員養成の目標と計画を作成し、教職課程を編成・実施している。

基準領域1については、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき育成を目指す教師像やカリキュラムを学生に周知するとともに、それらが教職員に共有され教職課程教育が計画的に進められている。教職課程の運営については、全学組織である教員

養成協議会において課題の検討や調整、教職課程の質の向上に向けた自己点検・評価を実施している。また、教育実習や教育インターシップ等の支援、教職に関わる各種資料の提供等はこどもコミュニティセンターが担当している。

基準領域2については、各学科のアドミッション・ポリシーに基づいて募集や選考が行われ、大学生としての基礎的素養を培う授業科目「スタディナビゲーション」等を通じて、教職課程における学びの意義等について周知している。キャリア支援については、こどもコミュニティセンターにおいて、教職関係の資料や情報を提供、また、教員採用試験に向けた教職サポートセミナーを計画的に実施している。

基準領域3については、各学科の目標達成に向けた課程と教職課程とを関連付けながら、学科の特色を反映した教職課程教育を進めている。ICTの活用やアクティブラーニングについては、シラバスに明記し、授業への具体化を図っている。また、教育実習を履修するための条件を定めるとともに、事前指導を行い必要な実践的指導力の確保に努めている。地域との連携については、近隣の学校における教育インターンシップやボランティア活動が定着しつつある。

以上、本学では各学科及び全学組織である教員養成協議会、こどもコミュニティセンター、教務課などが相互に連携しながら、教職課程の運営と改善に向けた取り組みを進めてきた。改善に向けた課題として次の3点を挙げる。

第1に、大学の教職課程全体として、教職課程の運営改善と質の向上に向けた取り組みを充実する。そのために、各学科の特色や経験を生かしながら、3学科の一層の連携を深めた課程運営を進め、実践的な指導力の育成やキャリア支援の取り組みの充実を図る。

第2に、学校現場の状況や教員養成・採用に関わる動向を把握しながら、必要とされる実践的指導力の育成に向けた取り組みを進める。特にICTを活用した教育については、必要とされる知識や技能の向上に向けた取り組みの充実を図る。

第3に、職業としての教育職の意義や働きがい、専門職性等についてさらに理解を深め、教職志願者の増加と定着を促し、進路希望の実現に向けたキャリア支援を充実する。そのため教職へ理解を促進する機会の充実、学習意欲の醸成とともに、教員採用試験に向けた学習支援の充実を図る。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

教員養成に関わる全学組織である教員養成協議会において、自己点検・評価及び報告書の作成を担当することとし、2022年度5回の協議会を開催し、報告書の作成を進めた。また、教員養成協議会の下に、教職課程自己点検・評価専門部会を設け、専門的事項の検討及び報告書案の作成を行った（2022年度5回の開催）。さらに、教職課程自己点検・評価の報告書の構成、作成スケジュールの調整、学外における関係情報の収集整理等を行うため、教職課程自己点検・評価検討会を設け、諸準備と調整に当たった（2022年度20回の開催）。

- 1 教職課程自己点検・評価の概要の把握と実施方針等の検討（2022年4月～6月）
- 2 教職課程自己点検・評価の実施方針、実施体制等の決定（2022年6月）
- 3 教職課程自己点検・評価報告書の構成、作成要領の決定（2022年8月）
- 4 自己点検・評価に必要な関係資料の収集と整理（2022年7～11月）
- 5 教職課程自己点検・評価報告書案の審議（2022年11月～2023年度2月）
- 6 教職課程自己点検・評価報告書の確定・承認と公表手続き（2023年3月）

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 九里学園					
大学・学部名 浦和大学 こども学部・社会学部					
学科・コース名（必要な場合） こども学部：こども学科、学校教育学科 社会学部：現代社会学科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数	こども学科		54人		
	学校教育学科		18人		
	現代社会学科		0人（完成年度前）		
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	こども学科		50人		
	学校教育学科		16人		
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数	幼稚園教諭1種		38人		
	小学校教諭1種		17人		
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	幼稚園教諭		9人		
	小学校教諭		10人		
④のうち、正規採用者数	幼稚園教諭		9人		
	小学校教諭		0人		
④のうち、臨時的任用者数	幼稚園教諭		0人		
	小学校教諭		10人		
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（兼任教員）
教員数 （こども学科）	5人	5人	2人	0人	57人
教員数 （学校教育学科）	6人	2人	1人	0人	
教員数 （現代社会学科）	7人	2人	1人	0人	52人 （こども学部との兼務者含む）
教職支援専門職員数（特別招聘講師）			3人		

浦和大学
教職課程 自己点検・評価報告書
令和4年度

令和5年3月31日発行

発行 浦和大学
〒336-0974 埼玉県さいたま市緑区大崎 3551
TEL 048-878-3741 (代表)
HP <http://www.urawa.ac.jp>
